

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** テレホンカード2枚収蔵(明星大学日食コロナ、VERA 入来局完成記念)**

このテレホンカードをいただいてから時間が経てしまったが、アーカイブ室新聞には残しておくべきであったと反省し、記事にさせていただく。1枚目は国立天文台名誉教授で明星大学学長を務められた日江井栄二郎氏から頂いたものである(写真1)。



写真1 明星大学の1994年11月3日の日食コロナのテレホンカード

日江井先生は、東京天文台太陽物理部教授、乗鞍コロナ観測所長等を経て、国立天文台を定年後、明星大学に移られ、学長を務められ、現在は名誉教授として、国立天文台でよくお見かけしお話をうかがう仲である。

テレホンカードのコロナは明星学苑日食観測団が撮影したもので、1994年11月3日に南米パラグアイで起こった日食時のものである。日江井先生自身、東京天文台時代には何度も日食観測隊のメンバーとして観測に出かけられていた。2009年7月22日の日食では日食観測クルーズ船「パシフィック・ヴィーナス号」に乗り合わせ、船上のレクチャーで軽

妙な講演を聴かせていただいた。

写真 2 は、長い記念の文字が書かれている。「国立天文台天文広域精測望遠鏡 鹿児島大学・光学赤外線天体観測システム及び入来町環境整備事業完成記念 2001年9月2日」とある。われわれには VERA の 4 つの電波望遠鏡の 1 つである鹿児島入来町の電波望遠鏡完成記念の方が分かりやすい。



写真 2 長い名称の完成記念テレフォンカード

この国立天文台天文広域精測望遠鏡は、VERA のことで、他に水沢 VLBI 観測所、小笠原諸島の父島、八重山群島の石垣島にもあり、4 個の望遠鏡で三角測量を使った天体までの距離の精密観測をやっていて、世界で一番遠くの天体の三角測量に成功したというニュースが出たことがあった。